J

CD レシーバー

CRX-430

**ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、
まことにありがとうございます。**

■ 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
■ 保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **異常に高温になる。**
- **内部に水や異物が混入した。**
- **煙が出る。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

本機のSTANDBY/ONスイッチでスタンバイ状態にしても、本機はまた通電状態にあり、完全には主電源から遮断されていません。

本機を完全に主電源から切り離すためには、電源コードをコンセントから抜いてください。

電池

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため、本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右10cm、上10cm、背面10cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

ディスクトレイや、放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

手を挟まれないよう注意

ディスクをセットする際は、手をディスクトレイに挟まれないよう注意する。

閉めるときに挟まれて、けがの原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

禁止

ディスクトレイに手を入れない。
本機のメカニズムに手を引き込まれ、けがの原因になります。

禁止

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクを使用しない。
ディスクは、機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

レーザー光源をのぞき込まない。
レーザー光が目に当たると、視覚障害の原因になります。

禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

目次

はじめに

フロントパネル 2
リモコン 3

ご使用前の準備

本機を使う準備をする 4
スピーカー／外部機器／アンテナを接続する .. 4
リモコンに電池を入れる 5
時刻を設定する 5

基本操作

基本的なレシーバー操作 6
電源をオンにする 6
入力ソースを選択する 6
音量を調節する 6
音質を調整する 6
ヘッドフォンを接続する 6
ディスプレイの明るさを変える 6
タイマーを設定する 7
スリープタイマーを設定する 7

再生する

再生の操作 8
ディスクを再生する 8
繰り返し再生する 9
順不同に再生する（ランダム再生） 9
好きな順序で再生する（プログラム再生） 9
インデックスサーチ（音楽 CD のみ） 10
iPod™ を聞く 10
画面の表示内容を切り替える 11

ラジオを聴く

FM/AM ラジオを聴く 12
放送局を受信する 12
放送局を自動登録する 12
登録した放送局を選ぶ 12
登録した放送局に名前をつける 12

その他の情報

故障かな？と思ったら 13
全般 13
ディスクの再生 14
iPod™ の再生 14
放送局の受信 15
リモコンの操作 15
ディスクについて 16
ディスクに関するご注意 16
ディスクの取扱いについて 16
用語解説 17
主な仕様 18

特長

- **定格出力 25 W + 25 W**
  (6Ω、1 kHz、歪率 0.1%)
- **iPod 再生機能**
- **FM/AM チューナー搭載**
- **音楽 CD、MP3/WMA ディスク再生機能**
- **マルチジョグによる簡単操作**
- **放送局登録機能**

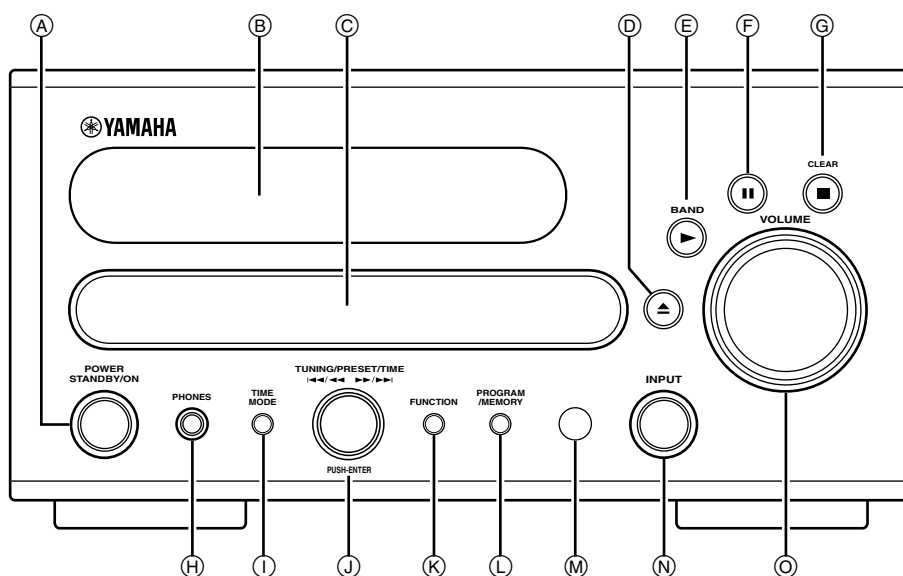
■ 付属品

ご使用の前に、以下の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

❏ **リモコン** (☞ P.3)
❏ **単 4 乾電池（2 本）** (☞ P.5)
❏ **FM 簡易アンテナ** (☞ P.5)
❏ **AM ループアンテナ** (☞ P.5)
❏ **Dock カバー** (☞ P.2)

本書について

・☀ では知っておくと便利な補足情報を記載しています。
・「ご注意」では操作・設定を行うときに留意すべき事項を記載しています。
・本書は製品の生産に先がけて作成されたものです。製品改良などの理由で実際の製品や梱包箱と内容が一部異なる場合がございますのでご了承ください。

フロントパネル

Ⓐ～Ⓞのアルファベットは本文中のボタン記号に対応しています。

Ⓐ STANDBY/ON（スタンバイ/オン） (☞ P.5、6、7)

Ⓑ ディスプレイ (☞ P.11)

Ⓒ ディスクトレイ (☞ P.8)

Ⓓ ⏏（トレイ開閉）(☞ P.8)

Ⓔ ►（再生）、BAND（バンド） (☞ P.6、8、9、12)

Ⓕ ❚❚（一時停止）(☞ P.8)

Ⓖ ■（停止）、CLEAR（クリア） (☞ P.8、9、10、12)

Ⓗ PHONES（フォンズ） 端子 (☞ P.6)

Ⓘ TIME MODE（タイム モード） (☞ P.5、6、7)

Ⓙ マルチジョグ

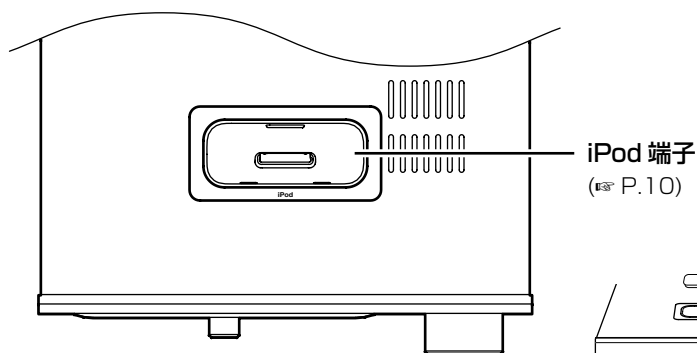
Ⓚ FUNCTION（ファンクション） (☞ P.6、10、12)

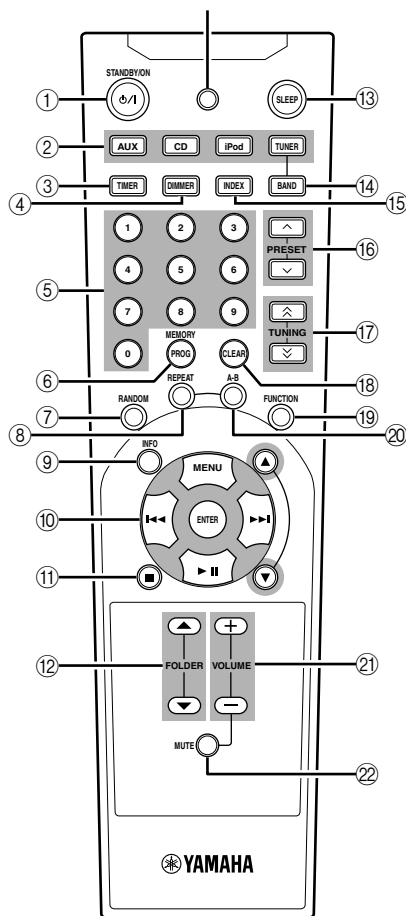
Ⓛ PROGRAM/MEMORY（プログラム/メモリー） (☞ P.9、10、12)

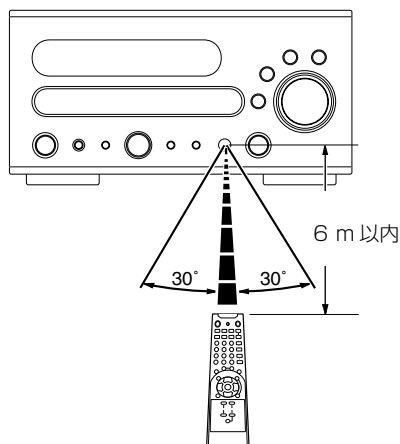
Ⓜ リモコン受光窓 (☞ P.3)

Ⓝ INPUT（インプット） (☞ P.6、8、10、12)

Ⓞ VOLUME（ボリューム） (☞ P.6)

上面

リモコン

ボタンを押したときに点灯します。

① ～ ㉒ の番号は本文中のボタン記号に対応しています。

① STANDBY/ON（スタンバイ/オン） (☞ P.6、7)
② 入力選択キー (☞ P.6、10、12)
③ TIMER（タイマー） (☞ P.7)
④ DIMMER（ディマー） (☞ P.6)
⑤ 数字キー (☞ P.8、9、10、12)
⑥ PROG（プログラム）、MEMORY（メモリー） (☞ P.9、10、12)
⑦ RANDOM（ランダム） (☞ P.9)
⑧ REPEAT（リピート） (☞ P.9)
⑨ INFO（インフォ） (☞ P.10、11)
⑩ ►II、I◄◄、►►I、MENU（メニュー）、ENTER（エンター）、▲、▼ (☞ P.6、8、9、10、12)
⑪ ■ (☞ P.8)
⑫ FOLDER（フォルダー） ▲ / ▼ (☞ P.8)
⑬ SLEEP（スリープ） (☞ P.7)
⑭ BAND（バンド） (☞ P.6、12)
⑮ INDEX（インデックス） (☞ P.10)
⑯ PRESET（プリセット） ∧ / ∨ (☞ P.12)
⑰ TUNING（チューニング） ⌃ / ⌄ (☞ P.12)
⑱ CLEAR（クリア） (☞ P.9、10、12)
⑲ FUNCTION（ファンクション） (☞ P.6、10、12)
⑳ A-B (☞ P.9)
㉑ VOLUME（ボリューム） ＋ / － (☞ P.6)
㉒ MUTE（ミュート） (☞ P.6)

本機から６ m 以内で、リモコンの赤外線受光部を本機のリモコン受光窓に向けて操作します。

ご注意

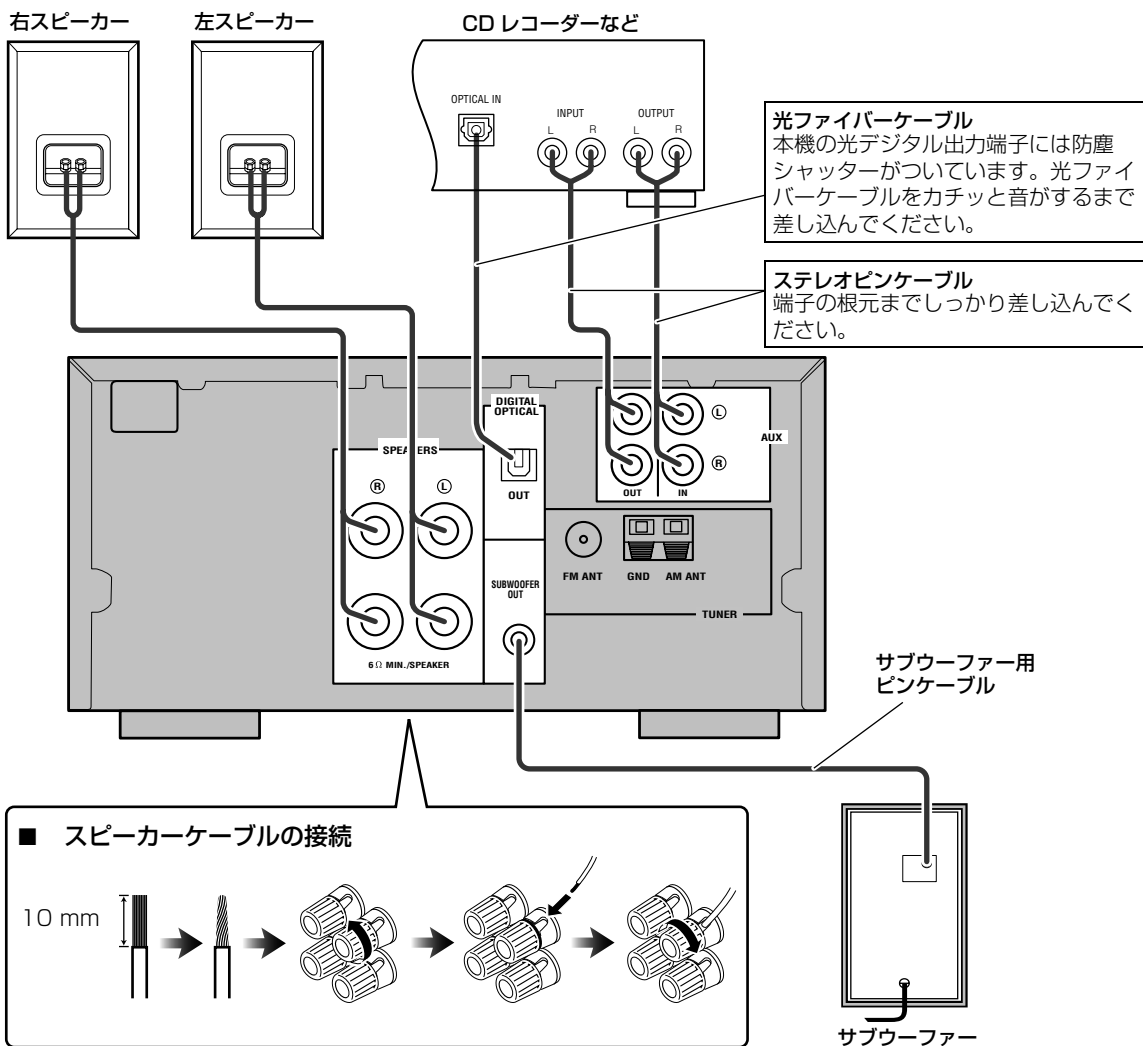
- リモコンに水や飲み物などをこぼさないようご注意ください。
- リモコンを落とさないようご注意ください。
- リモコンを以下のような場所に放置しないでください。
  – 気温・湿度が高い場所（ヒーターの近くや風呂場など）
  – 極端に気温が低い場所
  – ほこりっぽい場所

本機を使う準備をする

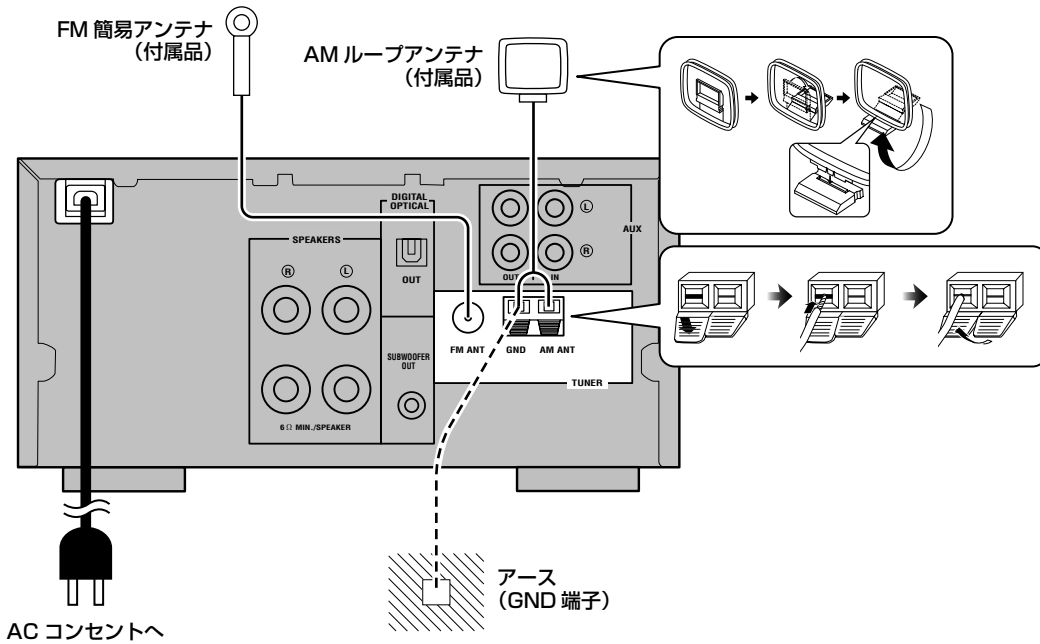
スピーカー／外部機器／アンテナを接続する

警告
すべてのケーブルを接続するまで、本機の電源コードは接続しないでください。

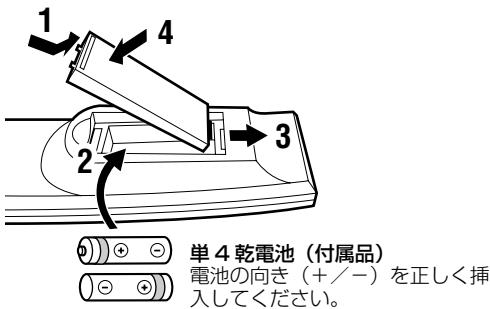
ご注意

・接続する前に、接続する機器の電源が切れていることを確認してください。
・接続する機器に付属している取扱説明書もご参照ください。

ご注意

・端子の左右（L、R）や、極性（赤 : +、黒 : −）を確認して正しく接続してください。
・スピーカーの芯線どうしが接触したり、芯線が他の金属部に接触することのないようご注意ください。本機およびスピーカーを破損する原因となります。
・スピーカーは、インピーダンスが6 Ω 以上のものをお使いください。
・DIGITAL OPTICAL 出力端子からは本機で再生したディスクの音声のみが出力されます。

 本文中のキーなどに付記されている数字やアルファベットは別紙のイラストに対応しています。

付属のアンテナでうまく受信ができない場合は、市販の屋外アンテナをご使用ください。屋外アンテナの入手方法については、お近くの家電量販店や音響機器販売店にご相談ください。

リモコンに電池を入れる

単４乾電池（付属品）
電池の向き（＋／－）を正しく挿入してください。

ご注意

- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。
- 使い切った電池はただちにリモコンから取り出してください。リモコンに挿入したままにしておくと、破裂や液漏れの原因となります。
- 使い切った電池は地域の条例または取り決めに従って廃棄してください。
- 電池が液漏れしている場合は、ただちに電池をリモコンから取り出し、廃棄してください。その際、肌や衣服が漏れているバッテリー液に触れることのないよう十分ご注意ください。リモコンにバッテリー液が付着している場合はきれいに拭き取ってから新しい電池を挿入してください。

時刻を設定する

本体のボタンで操作します。

1 Ⓐ**STANDBY/ON**を押して本機の電源をオンにします。

2 Ⓘ**TIME MODE**を押して「TIME」を選び、Ⓙ**マルチジョグ**を押します。

3 Ⓙ**マルチジョグ**を回して「時」を設定し、Ⓙ**マルチジョグ**を押します。

4 Ⓙ**マルチジョグ**を回して「分」を設定し、Ⓙ**マルチジョグ**を押します。

5 再度Ⓙ**マルチジョグ**を押して設定を終了します。

時刻は 24 時間表示です。

ご注意

タイマー機能をご使用になる前に時刻を設定してください。

基本的なレシーバー操作

電源をオンにする

①STANDBY/ON（または ⒶSTANDBY/ON）を押して本機の電源をオンにします。

再度押すと、電源がスタンバイ（待機）に切り替わります。

- 本機がスタンバイ時の時刻表示の有無を切り替えることができます。スタンバイ時に ⒾTIME MODE を長押しし、「ECO OFF」（時刻を表示する）または「ECO ON」（時刻を表示しない）を選択してください。
- 本機のスタンバイ時に iPod を充電するときは、「ECO OFF」を選択します。
- 本機はスタンバイ時にも時刻設定を保持します。電源コードを AC コンセントから抜くなどして、電源が 4 分以上供給されないと、時刻の設定が失われますので、ご注意ください。
- 本機はスタンバイのときにも少量の電力を消費します。

入力ソースを選択する

②入力選択キーを押して（または ⓃINPUT を繰り返し押して）CD、iPod、チューナー（FM/AM）、AUX から入力ソースを選択します。

- FM と AM を切り替えるときは ⑭BAND（または ⒺBAND）を押します。
- CD、iPod、チューナーの操作方法については、8、10、12 ページをご覧ください。
- 本機の AUX IN 端子に接続した外部機器の音声を本機で再生するときは、AUX を選択します。AUX を選択している間は、AUX OUT 端子から音声が出力されません。

音量を調節する

㉑VOLUME + を押して（または ⓄVOLUME を右に回して）音量を上げます。

㉑VOLUME – を押して（または ⓄVOLUME を左に回して）音量を下げます。

■　一時的に消音する

㉒MUTE を押します。

元の音量に戻すには、再度 ㉒MUTE を押すか、㉑VOLUME +/– を押します。

音質を調整する

1　⑲FUNCTION または（ⓀFUNCTION）を押します。

2　⑩▲/▼を繰り返し押して（または Ⓙマルチジョグを回して）Bass（低音）、Treble（高音）、Balance（スピーカーバランス）から設定したい項目を選択し、⑩ENTER（または Ⓙマルチジョグ）を押します。

3　⑩▲/▼を繰り返し押して（または Ⓙマルチジョグを回して）音質を調整し、⑩ENTER（または Ⓙマルチジョグ）を押します。

設定できる範囲は以下の通りです。

Bass. . . . . －10 dB ～ +10 dB
Treble. . . . . . . －10 dB ～ +10 dB
Balance . . . . . L +6 dB ～ R +6 dB

ご注意

音質の設定は、本機の AUX OUT 端子と DIGITAL OPTICAL OUT 端子から出力される音声には影響しません。

ヘッドフォンを接続する

お手持ちのヘッドフォンを本機の ⒽPHONES 端子に接続します。

ヘッドフォンを接続している間は、本機に接続したスピーカーとサブウーファーからは音声が出力されません。

ディスプレイの明るさを変える

④DIMMER を繰り返し押します。

ディスプレイの明るさは 3 段階で調整できます。

 本文中のキーなどに付記されている数字やアルファベットは別紙のイラストに対応しています。

タイマーを設定する

指定した開始時刻に本機の電源が自動的にオンになり、あらかじめ指定した入力ソースの再生が始まります。また、指定時間後に本機をスタンバイにすることもできます。

ご注意

タイマーを設定する前に時刻を設定してください (☞ P.5)。

本体のボタンで操作します。

1 ⓘ**TIME MODE を繰り返し押して「TIMER」を選択し、ⓙマルチジョグを押します。**

2 ⓙ**マルチジョグを右に回して「TIMER ON」を選択し、ⓙマルチジョグを押します。**

3 ⓙ**マルチジョグを回して再生を開始する時刻を入力し、ⓙマルチジョグを押します。**

4 ⓙ**マルチジョグを回して再生したい入力ソースを選択し、ⓙマルチジョグを押します。**
入力ソースは FM、AM、CD、iPod から選択できます。

CD は最初のトラックから、iPod は最後に再生した曲の続きから再生が始まります。

5 ⓙ**マルチジョグを回して本機の電源がスタンバイになるまでの時間を選択し、ⓙマルチジョグを押します。**
30 分から 90 分まで 10 分間隔で設定できます。本機の電源を自動的にスタンバイにしないときは「－－」を選びます。

タイマーの動作中はディスプレイの右上に◷が表示されます。

6 ①**STANDBY/ON（または Ⓐ STANDBY/ON）を押して本機の電源をスタンバイにします。**

スリープタイマー機能を使って本機の電源をスタンバイにすることもできます。

■ タイマーを解除する

手順 2 で「TIMER OFF」を選択します。

一度タイマーを設定すると、次回からは ③TIMER を押してタイマーをオンまたはオフにすることができます。

スリープタイマーを設定する

設定した時間が経過すると自動的に本機の電源がスタンバイになります。

⑬SLEEP を繰り返し押してスリープタイマーの動作時間を選択します。

動作時間は 30 分、60 分、120 分から選択できます。スリープタイマーが動作すると、ディスプレイは自動的に暗くなります。

■ スリープタイマーの動作時間を詳細に設定する

1 ⓘ**TIME MODE を繰り返し押して「SLEEP」を選択し、ⓙマルチジョグを押します。**

2 ⓙ**マルチジョグを回して動作時間（5 ～ 240 分）を設定し、ⓙマルチジョグを押します。**
60 分までは 5 分間隔で、60 分から 120 分までは 10 分間隔で、120 分から 240 分までは 30 分間隔で設定できます。

■ スリープタイマーを解除する

ディスプレイが通常表示になるまで ⑬**SLEEP** を繰り返し押します。または、「スリープタイマーの動作時間を詳細に設定する」の手順 2 で「SLEEP OFF」を選択します。

ご注意

- 本機に接続した外部機器の電源をオフにすることはできません。
- スリープタイマーの動作中に本機の電源をスタンバイに切り替えると、設定したスリープタイマーは自動的に解除されます。

スリープタイマーの動作中はディスプレイの右上に SLEEP が表示されます。

基本操作

再生の操作

ディスクの種類により使用できる機能が異なります。本機で再生が可能なディスクの種類やディスクを取り扱う際のご注意については、「ディスクについて」(☞ P.16) をご参照ください。

ディスクを再生する

1 Ⓝ INPUT を繰り返し押して「CD」を選択します。

2 Ⓓ⏏を押してディスクトレイを開き、印刷面を上にしてディスクを乗せます。

本機の電源がスタンバイのときに Ⓓ⏏を押すと、入力ソースとして CD が選ばれた状態で本機の電源がオンになり、ディスクトレイが開きます。

3 ⑩►❚❚(または Ⓔ►)を押します。

ディスクトレイが閉まり、再生が始まります。

本機にディスクが入った状態で入力ソースを「CD」に切り替えると、自動的にディスクの再生が始まります。

■ 再生を停止する

⑪■(または Ⓖ■)を押します。

■ 再生を一時停止する

⑩►❚❚(または Ⓕ❚❚)を押します。通常の再生に戻すには ⑩►❚❚(または Ⓔ►)を押します。

■ トラックをスキップする

- 再生中のトラックの開始位置にスキップするには、⑩|◄◄を押します(または、Ⓙ**マルチジョグ**を左へ 1 クリック回します)。
- 次のトラックにスキップするには、⑩►►|を押します(または、Ⓙ**マルチジョグ**を右へ 1 クリック回します)。
- 前のトラックにスキップするには、⑩|◄◄を 2 回押します(または、Ⓙ**マルチジョグ**を左へ 2 クリック回します)。

■ 早戻し/早送りする

- 早戻しするには、⑩|◄◄を長押しします。
- 早送りするには、⑩►►|を長押しします。

Ⓙ**マルチジョグ**を押してから左右に回しても早戻し/早送りできます。早戻し/早送りを解除するには、Ⓙ**マルチジョグ**を押してください。

■ トラックを指定して再生する

⑤**数字キー**を押して再生したいトラック番号を入力します。

ご注意

MP3/WMA ファイルの番号は、フォルダごとではなく、ディスク全体を通して割り振られます。

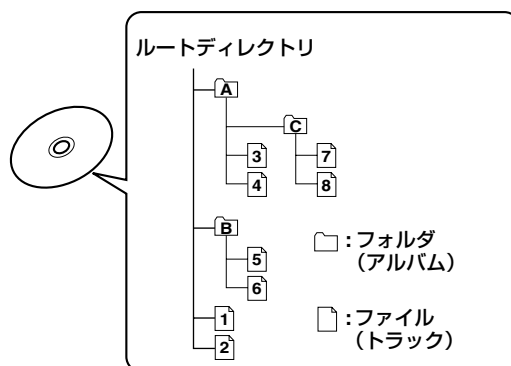
■ MP3/WMA ファイルやフォルダを選択する

1 ⑫ FOLDER ▲/▼を押してフォルダを選択し、⑩ ENTER を押します。

2 ⑩|◄◄/►►|を押してファイルを選択します。

3 ⑩ ENTER を押して選んだフォルダやファイルを再生します。

■ MP3 および WMA ファイルについて

本機では、CD-R や CD-RW に収録した MP3 および WMA ファイルを、音楽 CD と同様に再生することができます。下図の順序で再生されます。

ご注意

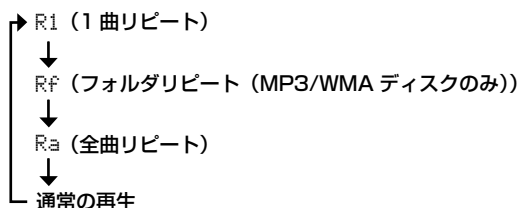
- ディスク作成ソフトウェアの設定などによっては、この順序で再生されない場合があります。
- 同一階層にあるファイルやフォルダは、ファイル名・フォルダ名の英数字順に再生されます。
- 本機が再生できるファイルおよびフォルダはそれぞれ最大 255 個です。ただし、本機で再生することができないファイルやフォルダが含まれている場合は、それらを除いた数が表示されます。
- 著作権保護されたファイルは再生できません。

本文中のキーなどに付記されている数字やアルファベットは別紙のイラストに対応しています。

繰り返し再生する

⑧REPEAT を繰り返し押してリピートモードを選択します。

リピートモードは以下のように切り替わります。

R1（1 曲リピート）
↓
Rf（フォルダリピート（MP3/WMA ディスクのみ））
↓
Ra（全曲リピート）
↓
通常の再生

■ 指定した部分のみを繰り返し再生する（A-B リピート）

1 再生中、開始位置として指定する箇所で ⑳**A-B** を押す。

2 終了位置として指定する箇所で ⑳**A-B** を押す。

■ A-B リピートを解除する

再度 ⑳**A-B** を押します。

ご注意

ディスクトレイを開けると、リピート再生は解除されます。

順不同に再生する（ランダム再生）

⑦RANDOM を押す。

■ ランダム再生を解除する

再度 ⑦**RANDOM** を押します。

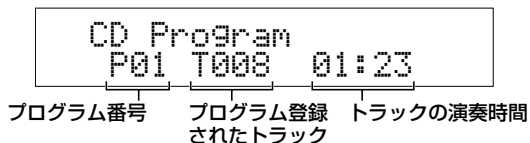
ご注意

ディスクトレイを開けると、ランダム再生は解除されます。

好きな順序で再生する（プログラム再生）

1 **再生停止中に ⑥PROG（または ⓁPROGRAM/MEMORY）を押します。**
本機はプログラム入力モードに切り替わります。

2 **⑩ENTER（または Ⓙマルチジョグ）を押します。**

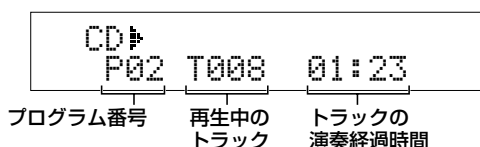
3 **⑤数字キーを押してプログラム再生に登録するトラック番号を入力し、⑩ENTER を押します。（または Ⓙマルチジョグを回してトラック番号を選択して Ⓙマルチジョグを押します。）**

4 **手順 3 を繰り返して、プログラム再生に登録するトラック番号をすべて入力します。**
最大 40 トラックまで登録できます。

ご注意

- MP3/WMA ファイルの場合は、演奏時間は表示されません。
- MP3/WMA ファイルの番号は、フォルダごとではなく、ディスク全体を通して割り振られます。

5 **⑥PROG（または ⓁPROGRAM/MEMORY）を長押ししてプログラムしたトラックを保存します。**

6 **⑩▶ II（または Ⓔ▶）を押してプログラム再生を開始します。**

画面表示例

■ プログラム再生に登録されたトラックを確認・変更する

1 **プログラム再生の停止中に ⑥PROG（または ⓁPROGRAM/MEMORY）を押します。**
本機はプログラム入力モードに切り替わります。

2 **⑩ENTER（または Ⓙマルチジョグ）を繰り返し押してプログラムの順番を確認します。**

3 **変更する場合は、変更したいトラック番号を表示し、⑤数字キーを押して新しいトラック番号を入力します。**
トラックを削除したいときは ⑱**CLEAR**（または Ⓖ**CLEAR**）を押します。

4 **⑥PROG（または ⓁPROGRAM/MEMORY）を長押ししてトラックの確認・変更を終了します。**

■ 通常再生に戻る

本機がプログラム入力モードの間に ⑥**PROG** を押します。
保存したプログラムを再度呼び出すには、再生停止中に ⑥**PROG**（または Ⓛ**PROGRAM/MEMORY**）を押してから ⑩▶ II（または Ⓔ▶）を押します。

再生する

■ プログラムを消去する

プログラム再生モードで再生が停止している間に⑱**CLEAR**（またはⒼ**CLEAR**）を長押しします。

ご注意

ディスクトレイを開けると、登録されたプログラムの内容が消去されます。

インデックスサーチ（音楽CDのみ）

インデックス番号が登録された音楽CDでは、インデックス番号を指定して演奏を始めることができます。

1 ⑮**INDEX**を押します。

2 ⑤**数字キー**を押してインデックス番号を指定します。

■ インデックスサーチを解除する

再度⑮**INDEX**を押します。

一つの曲をさらに小さな部分に区切り、番号付けしたものがインデックスです。インデックスが記録されているディスクには、解説書にIN•DEXマークがついています。

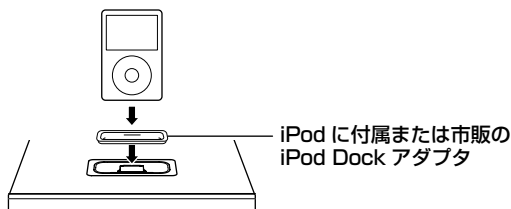
ご注意

- インデックス番号が記録されていないディスクもあります。
- 入力されたインデックス番号がディスクに存在しない場合は、本機は最後のインデックス番号から再生を開始します。
- ディスクによっては、再生が始まる箇所が実際のインデックスよりも少し前になることがあります。

iPod™を聞く

iPodを直接本機に接続し、リモコンで操作して再生することができます。

iPod（クリックホイール仕様）、iPod nano、iPod mini、iPod touchが接続できます。

1 本機上面のiPod端子にiPodを接続します。

ご注意

- 必ずお使いのiPodに適合するiPod Dockアダプタを取り付けた状態で使用してください。取り付けずに使用した場合、接触不良の原因となり、正しく動作しないことがあります。
- iPodは、iPod用アクセサリー（ヘッドフォンなど）を取り外した状態で本機に接続してください。

2 ②**iPod**を押して（またはⓃ**INPUT**を繰り返し押して）「iPod」を選択すると再生が開始されます。

本機がスタンバイのときや、他の入力ソースが選ばれているときでも、再生中のiPodを接続すると、自動的にiPodの再生が始まります。

3 iPod再生モードを選択します。

1 ⑲**FUNCTION**を押し、次に⑩**ENTER**を押します。（またはⓀ**FUNCTION**を押し、次にⒿ**マルチジョグ**を押します。）

2 ⑩**▲/▼**を押して（またはⒿ**マルチジョグ**を回して）iPod再生モードを選択し、⑩**ENTER**（またはⒿ**マルチジョグ**）を押します。

モード	再生情報	操作
Menu mode	本機のディスプレイに表示されます。	リモコン
Click wheel	iPodに表示されます。	リモコンまたはiPod

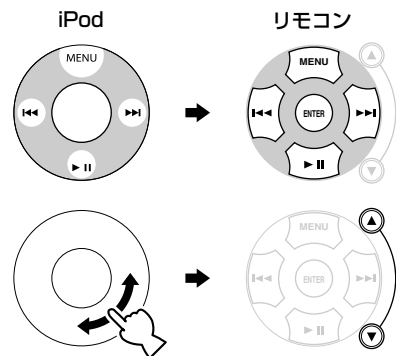
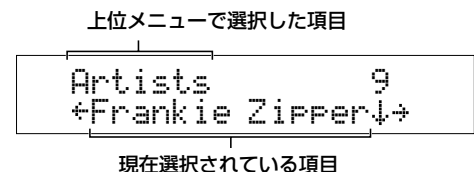
4 お好みの曲を選択します。

本機のリモコンのボタンはiPodのクリックホイールに対応しています。リモコンを使ってiPodと同様に操作をすることができます。

Menu mode時の表示例

上位メニューで選択した項目

Artists 9
←Frankie Zipper↓→

現在選択されている項目

- ⑨**INFO**を押して再生状況の表示を変更することができます。詳しくは、11ページをご覧ください。
- iPodは再生中でも取り外せます。

ご注意

iPodの機種やソフトウェアのバージョンによっては、使用できない機能もあります。

 本文中のキーなどに付記されている数字やアルファベットは別紙のイラストに対応しています。

画面の表示内容を切り替える

⑨**INFO** を繰り返し押します。

ご注意

英数字のみ表示することができます。

■ 音楽 CD

トラックの演奏経過時間（初期画面）

↓

トラックの残り時間

↓ T001 -04:23

ディスクの総演奏時間

↓ TTL T014 31:23

ディスクの残り時間

↓ TTL T014 -30:00

トラック名 *

↓ Road to India

アーティスト名 *

↓ Frankie Zipper

ディスク名 *

↓ Made-to-order

初期画面に戻る

* CD TEXT ディスク再生時のみ表示されます。

■ iPod（Menu mode 時）、MP3/WMA ディスク

スクロール画面（初期画面）*1

↓

トラックの演奏経過時間

↓ T0001 01:23

トラックの残り時間

↓ T0001 -04:23

ファイル名 *2

↓ Road-to-India

曲名

↓ Road to India

アーティスト名

↓ Frankie Zipper

アルバム名

↓ Made-to-order

年 *2

↓ 2008

コメント *2

↓ Live at LDFU

初期画面に戻る

*1 スクロール画面は「曲名」、「アーティスト名」、「アルバム名」を順に表示します。
*2 MP3/WMA ディスク再生時のみ表示されます。

再生する

FM/AM ラジオを聴く

放送局を受信する

1　②TUNER を押して（または ⓃINPUT を繰り返し押して）「FM」または「AM」を選択します。

2　⑭BAND（または ⒺBAND）を押して「FM」と「AM」とを切り換えます。

3　⑰TUNING ⌃ / ⌄ を長押しします。
本機は自動的に放送局をサーチして受信します。

（フロントパネルで操作するとき）
Ⓙ**マルチジョグ**を繰り返し押して「Auto tune」を選択し、Ⓙ**マルチジョグ**を回してサーチを開始します。

- 電波の弱い放送局を受信するときは、⑰**TUNING** ⌃ / ⌄ を繰り返し押して手動で周波数を合わせます。フロントパネルで操作するときは手順 3 で「Manual tune」を選択し、Ⓙ**マルチジョグ**を回して放送局を選択します。
- 電波の弱い FM 放送局を受信するときは、以下の手順で本機の受信モードをモノラルにしてください。
  1. ⑲**FUNCTION** を押し、次に ⑩**ENTER** を押します。（または Ⓚ**FUNCTION** を押し、次に Ⓙ**マルチジョグ**を押します。）
  2. ⑩ **▲/▼** を押して（または Ⓙ**マルチジョグ**を回して）「STEREO」の代わりに「MONO」を選択し、⑩**ENTER**（または Ⓙ**マルチジョグ**）を押します。

放送局を自動登録する

画面に「Auto memory」と表示されるまで ⑥MEMORY（または ⓁPROGRAM/MEMORY）を長押しします。
- 最大で FM30 局、AM20 局の放送局が登録できます。
- 自動登録が完了するとディスプレイに「COMPLETE」と表示されます。

ご注意

放送局を自動登録すると、これまで登録されていた放送局は上書きされます。

■ 放送局を手動登録する

1　登録したい放送局を受信します。
操作については、「放送局を受信する」（本ページ）をご覧ください。

2　⑥MEMORY（または ⓁPROGRAM/MEMORY を押します。）
⬇ 4 秒以内に
⑯PRESET ∧ / ∨ を押して（または Ⓙマルチジョグを回して）プリセット番号を選択します。
⬇ 4 秒以内に
⑥MEMORY（または ⓁPROGRAM/MEMORY）を押します。

■ 登録した放送局を削除する

登録した放送局を選択しているときに ⑱**CLEAR**（または Ⓖ**CLEAR**）を押します。FM または AM の登録したすべての放送局を消去するときは ⑱**CLEAR**（または Ⓖ**CLEAR**）を長押しします。

登録した放送局を選ぶ

⑯PRESET ∧ / ∨ を繰り返し押して登録した放送局を選びます。

（フロントパネルで操作するとき）
Ⓙ**マルチジョグ**を繰り返し押して「Preset tune」を選択し、Ⓙ**マルチジョグ**を回してサーチを開始します。

⑤**数字キー**で放送局を選ぶこともできます。

登録した放送局に名前をつける

1　名前をつけたい放送局を選局します。

2　ディスプレイにカーソルが表示されるまで Ⓙマルチジョグを長押しします。

3　Ⓙマルチジョグを回して文字を選び、押して確定します。
- アルファベット（A から Z）と数字（0 から 9）を入力できます。
- スペースを入力するには、「Z」と「0」の間の空白を選びます。
- 入力した文字を消すには、Ⓖ**CLEAR** を押します。
- すべての文字を消すには、Ⓖ**CLEAR** を 3 秒以上長押しします。

4　入力が終わるまで手順 3 を繰り返します。

5　Ⓙマルチジョグを長押しして名前を登録します。

本文中のキーなどに付記されている数字やアルファベットは別紙のイラストに対応しています。

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、まず下記をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行っても正常に作動しない場合は、本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点までお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れる	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。	5
	スピーカーケーブルがショートした。	スピーカーケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。	4
	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機の電源をスタンバイにして電源コードを抜いてください。約 30 秒後に電源コードをコンセントに再度接続し、電源をオンにしてください。	—
スピーカーから音が出ない	音量が最小に設定されている。	音量を調節してください。	6
	消音機能を使用している。	消音を解除してください。	6
	入力ソースが正しく選択されていない。	正しい入力ソースを選択してください。	6
	ケーブルが正しく接続されていない。	すべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。	4、5
	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機の対応ディスクおよび再生しようとしているディスクの種類をご確認ください。	16
音が突然出なくなる	スリープタイマーを設定している。	電源をオンにして再生しなおしてください。	6
片側のチャンネルの音がほとんど出ない	ケーブルが正しく接続されていない。	すべてのケーブルが正しく接続されていることを確認し、スピーカーバランスを調節してください。	4、6
音量が大きくならない／音が歪む	本機の出力端子に接続している機器の電源が入っていない。	本機の出力端子に接続している機器の電源を入れてください。	—
本機が正常に動作しない	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機の電源をスタンバイにして電源コードを抜いてください。約 30 秒後に電源コードをコンセントに再度接続し、電源をオンにしてください。	—
本機で再生している音声を外部レコーダーで録音できない	アナログソースをデジタル録音しようとしている。	適切な入力ソースを入力してください。	6
時刻設定が消えた	本機への電源供給が 4 分以上遮断された。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることを確認し、時刻を再度設定してください。	5
周囲に設置しているデジタル機器や高周波機器から雑音が出る	本機とデジタル機器または高周波機器の位置が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	—

ディスクの再生

症状	原因	対策	参照ページ
特定の機能がはたらかない	ディスクの種類により本機の機能に対応していない場合があります。		—
Ⓔ▶（または ⑩▶ ❚❚）キーを押しても再生が始まらない（すぐに停止する）	ディスクがディスクトレイに正しくセットされていない。	ディスクを正しくセットしてください。	8
	ディスクが汚れている。	ディスクの汚れを拭きとってください。	16
	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機が対応しているディスクを使用してください。	16
	本機を気温の低い場所から高い場所に移動したため、レンズ部に露が付いた。	本機を 1、2 時間ほど放置してから再度操作してください。	—
ディスクをディスクトレイにセットしてもディスプレイに「No Disc」と表示されたままになり、ディスクが認識されない	本機で再生できないディスクを再生しようとしている。	本機が対応しているディスクを使用してください。	16

iPod™ の再生

症状	原因	対策	参照ページ
iPod を iPod 端子にセットしてもディスプレイに「Unplugged」と表示されたままになり、iPod が認識されない。	iPod が正しく接続されていない。	iPod を取り外し、再度 iPod 端子に接続してください。	10
		お手持ちの iPod に付属または市販の Dock アダプタを本機の iPod 端子に取り付けてご使用ください。	—

放送局の受信

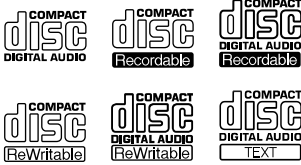
症状	原因	対策	参照ページ
登録した放送局を選局できない	本機のメモリーに登録された設定内容が消去された。	放送局を再度登録してください。	12
プリセット選局などの設定内容が消えた	電源コードがコンセントから抜けていたり、外部タイマーにより電源が切られていた場合など、本機への電源供給が 1 週間以上遮断されていた。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることを確認し、放送局を再度登録してください。	5、12
自動受信ができない	アンテナが正しく接続されていない。	アンテナが正しく接続されていることをご確認ください。	5
	放送局の電波が弱い、またはお住まいの地域の放送局の受信感度がよくない。	手動選局で放送局を選局してください。	12
(FM) ステレオ放送になるとたくさんの雑音が入る	FM 簡易アンテナが正しく接続されていない。	FM 簡易アンテナが正しく接続されていることをご確認ください。	5
	選択している放送局の電波が弱い、またはお住まいの地域の FM 放送局の受信感度がよくない。	手動選局で雑音を軽減するか、市販の屋外アンテナをご使用ください。	5、12
		本機の受信モードをモノラルにしてください。	12
(FM) 屋外アンテナを使用していても受信感度が悪い（音が歪むなど）	マルチパス（多重反射）等の妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
(AM) たくさんの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具などの雑音を拾っている。	この種類の雑音を完全に除去するのは困難です。屋外アンテナを使用して、アース線を正しく接続すると雑音が軽減できる場合があります。	5
	本機とテレビの位置が近すぎる。（特に夕方〜夜になると雑音が入る場合）	本機をテレビから離して設置してください。	—

リモコンの操作

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで本機を操作できない	リモコンの操作範囲外から操作しようとしている。	リモコンの操作範囲内で操作してください。	3
	本機のリモコン受光部に直射日光や照明があたっている。	照明または本機の向きを変更してください。	—
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。	5

ディスクについて

ディスクに関するご注意

本機は音楽 CD、CD-R/RW、8 cm ディスクが再生できます。

ディスクのロゴマークは、ディスクやディスクのジャケットに印刷されています。

ご注意

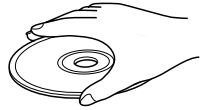
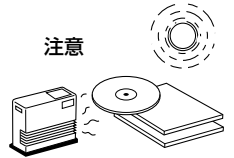
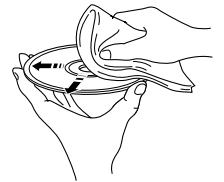
本機の故障やディスクの破損の原因となりますので、これ以外のディスクは使用しないでください。

本機は下記のデータディスクに対応しています。
– CD-R/RW に保存された MP3 ファイル（サンプリング周波数 44.1 または 48 kHz ／ビットレート 32、64、96、128、192、256 または 320 kbps および可変ビットレート（CBR および VBR））
– CD-R/RW に保存された WMA ファイル（サンプリング周波数 44.1 kHz ／ビットレート 192 kbps 以下および可変ビットレート（CBR および VBR））
– ISO 9660 フォーマットの CD-R/RW

ご注意

- ファイナライズされていない CD-R や CD-RW ディスクは再生できません。ファイナライズとは、各ディスクの再生対応機器で再生できるように処理することです。
- 信頼できるメーカーのディスクを使用してください。録音状態やディスクの特性によっては、再生できない場合があります。
- ハート型などの特殊形状のディスクは使用しないでください。
- 表面に傷のあるディスクは使用しないでください。
- 著作権保護がかけられている WMA ファイルは再生できません。
- 48 kHz のサンプリング周波数は、44.1 kHz にダウンサンプリングされて再生します。

ディスクの取扱いについて

- ディスクを持つときは、ディスクの縁や中央の穴を持つようにし、表面に触れないでください。
- 再生時以外はディスクをトレイに入れたままにしないでください。
- ディスクに鉛筆などで字を書かないでください。
- ディスクにテープやシールなどを貼ったり、のりなどをつけないでください。
- 傷つき防止用のプロテクターなどは使わないでください。
- 市販のラベルプリンターで表面に印刷したディスクは使わないでください。
- ディスクを保管する際には、直射日光のあたるところや温度の高いところ、湿気やほこりの多いところは避けてください。

- ディスクが汚れたときには、乾いた柔らかい布で中心から外側へふいてください。レコードクリーナーやシンナーなどは使わないでください。
- 誤動作の原因になるため、市販のレンズクリーナーなどは使わないでください。
- ディスクは 1 枚だけ装着してください。2 枚以上重ねて装着すると故障の原因となり、ディスクを傷つけることにもなります。
- 8 cm ディスクは、アダプターを使用せずに確実にディスクガイド（凹部）に合わせて装着してください。正しく装着しないとディスクが脱落しディスクトレイが開かなくなることがあります。
- ディスクトレイが引き込まれるときに指を挟まないようにご注意ください。
- ディスク以外のものをディスクトレイに載せないでください。
- ひび割れや変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。

お知らせ

使用環境により異なりますが、レンズのクリーニングは必要ありません。誤動作の原因になるため、市販のレンズクリーナーは使用しないでください。

用語解説

■ MP3

MPEG で利用される音声圧縮方式の一つです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並みの音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できるといわれています。

■ WMA

Microsoft 社が開発した音声圧縮方式です。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並みの音質を保ったままデータ量を約 1/22（64 kbps）まで圧縮できるといわれています。

■ iPod

Apple 社が開発したポータブルオーディオプレーヤーです。

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

その他の情報

主な仕様

■ アンプ部

- 定格出力（6Ω、1 kHz、全高調波歪率 0.1%）……25 W + 25 W
- 入力感度／インピーダンス
  AUX …… 350 mV/47 kΩ
- 周波数特性
  CD など …… 20 Hz ～ 20 kHz ± 0.5 dB
- 全高調波歪率（1 kHz）
  CD など …… 0.03%
- S/N 比（IHF-A ネットワーク）
  CD など（350 mV、入力ショート）…… 98 dB

■ FM 部

- 受信周波数範囲 …… 76.00 ～ 108.00 MHz
- S/N 比（モノラル）…… 65 dB
- 感度（S/N 30 dB）…… 1.0 μV/m

■ AM 部

- 受信周波数範囲 …… 522 ～ 1629 kHz
- S/N 比 …… 35 dB
- 感度 …… 600 μV/m

■ CD プレーヤー部

- S/N 比 …… 110 dB
- 全高調波歪率 …… 0.005%
- チャンネルセパレーション …… 100 dB
- レーザー
  タイプ …… GaAlAs
  波長 …… 790 ± 25 nm
  出力 …… 最大 8mA

■ 全般

- 電源電圧 …… AC 100 V、50/60 Hz
- 消費電力 …… 80 W
- 待機時消費電力 …… 0.5 W
- 外形寸法（幅×高さ×奥行き）… 210 x 109 x 359.5 mm
- 質量 …… 4.65 kg

* 仕様、および外観は、製品の改良のため予告なく変更することがあります。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当あたりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

警告

この取扱説明書に記載されている以外の調節や操作は、有害な放射を引き起こす可能性があります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ お客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053) 463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社